

休眠預金活用事業 事業計画書

基本情報

| | |
|-------|----------------------|
| 事業名 | バスケットを通じた子どもの居場所創出事業 |
| 実行団体 | 株式会社DeNA川崎プレイブサンダース |
| 事業の種類 | ③ソーシャルビジネス形成支援事業 |

| | |
|-------|---|
| バージョン | 1 |
|-------|---|

| | |
|--------|--------------------|
| 事業名 | スポーツクラブによる困窮世帯支援事業 |
| 資金分配団体 | 一般社団法人RCF |

優先的に解決すべき社会の諸課題

| 領域 | 分野 |
|--|---------------------------|
| 1) 子ども及び若者の支援に係る活動 | ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 |
| 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動 | ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援 |
| 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 | ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援 |

I. 団体の社会的役割

| |
|---|
| (1) 団体の目的 |
| バスケットボールチームの事業運営全般・川崎からバスケットボールの未来をつくる |
| (2) 団体の概要・活動・業務 |
| バスケットボールチームの事業運営全般、バスケットボールの興行、選手の養成及び指導並びにその施設の経営、バスケットボール教室等各種イベントの開催及びスポーツ施設の経営、他附帯関連する一切の業務 |

II. 事業概要

| | | | | | |
|-------|---|-----------|--|-----------|----|
| 実施時期 | 2021年7月末より | 直接的対象グループ | コロナ禍により、居場所が十分に確保できない(共働きであるが学童に入れていない等)、また、経済的な理由等でバスケットボールのスクールに通うことが困難な小中学生を対象。 | 間接的対象グループ | なし |
| 対象地域 | 川崎市 | 人数 | スカラシップ事業 50名を対象居場所事業 利用者 | 人数 | なし |
| 事業の概要 | ①バスケットボールスクールのスカラシップ事業 ②安心して滞在出来る拠点づくり | | | | |

III. 事業の背景・課題

| |
|---|
| (1) 社会課題 |
| コロナウイルス蔓延により、在宅時間が多くなることでDV等の課題が顕在化し、安心出来る場の欠如している子どもが増えている。 https://mainichi.jp/articles/20200629/k00/00m/040/095000c ・この事業を通して、子どもたちに学び/居場所を提供し、その中で自ら社会に出て活動していける子ども育成拠点になりたい。 |
| (2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況 |
| コロナ影響による支援はまだ行き届いていないと感じている。 |
| (3) 休眠預金等交付金に係わる資金の活用により本事業を実施する意義 |
| コロナ禍で追い詰められている子どもを見つけ出し、行政へ連携。 また、スポーツを通して生きる喜びを与え、未来のバスケットへ繋がる可能性を広げたい。 |

IV.事業設計

| 中長期アウトカム |
|---|
| 川崎ブレイブサンダース単体の事業ではなく、川崎地場のスポンサー企業や行政と連携して、より活動の場を広げていく。 ①コロナ禍だけでなく経済的な理由や家庭環境の問題で、十分な居場所/学びの機会の得られていない子どもを応援する基金(スポンサーシップ)を設立し、バスケットボールスクール以外にも挑戦する機会を創出。 ②複数拠点に展開し、中のコンテンツや児童家庭課との連携も強化し、居場所=>子ども達が置いていかれない為の防波堤(=課題のある子ども達を見つけ、対応する場所)としての位置づけにまで昇華。 官民一体で子ども達を救う仕組みを確立。 |

| 短期アウトカム | 指標 | 初期値/初期状態 | 目標値/目標状態 | 目標達成時期 |
|---|------------------------------------|----------|---|----------|
| バスケットボールスクールを通して子どもの生きる支え、楽しさを創出。事業継続の道筋を立てる。 | バスケットボールスクールを無償提供し、継続する仕組みを作れているか。 | 実績なし | バスケットボールを通して、子どもが元気になること。そして、危なそうな家庭の子どもを見つけ出し、行政に連携、スポンサーなどにより、事業を継続していける状態。 | 2022年2月末 |
| 居場所を提供し、児童家庭課との連携も強化し、官民一体で子ども達を救う仕組みを確立、継続。 | 行政に連携している子どもの居場所としての地位を確立しているか。 | 実績なし | 問題を抱えていそうな子どもを一人でも多く見つけ出し、行政に連携。物販売上等による維持費を作り出し、継続している状態 | 2022年2月末 |

| アウトプット | 指標 | 初期値/初期状態 | 目標値/目標状態 | 目標達成時期 |
|--|--|---|---|----------|
| 1,2共通 生きる支えとなっている子を1人でも多く輩出。 コロナ禍等の影響で、学ぶことや発信することを諦めることなく実現するキッカケ/仕組みとして、1つのロールモデルになっている状態。 | 1.スカラシップ対象者数 2.アンケートでの満足度 3. 対象者数の内、継続希望者数 4. 対象者の居場所利用者数 | 過去にTEAMMATES事業実施経験あり。活動を通じて、バスケットボールが好きになり、治療用の補装具が欠かせなかったが、リハビリにも前向きに取り組み、装具を外せるまでに回復。 | 1,50人以上 2.90%以上 3.80%以上 4.100人/月 | 2022年2月末 |

アウトプット[No.1]に対する活動

| 活動内容 | 活動時期 |
|---|----------|
| 川崎ブレイブサンダースの運営するバスケットボールスクールに1年間無償で受け入れる。 | 2021年9月~ |

アウトプット[No.2]に対する活動

| 活動内容 | 活動時期 |
|--------------------|-----------|
| 学校/駅近くに、6坪屋内+25坪屋外 | 2021年9月頃~ |

V.インプット

| 人材 | 資機材 |
|--|-------------------------|
| 【内部】全体管理者2名、居場所1名、スカラシップ管理者3名、【外部】居場所常駐スタッフ2名、アルバイトスタッフ2名、コーチ20名 | 生活消耗品(トイレトーパー、消毒・清掃用品等) |

VI.持続可能性

| | |
|--------|----------------------------------|
| 持続可能性1 | 協賛獲得による事業継続、居場所における物販収入等で事業継続も検討 |
| 持続可能性2 | 行政連携による他団体との連携による継続 |

VII.広報戦略および連携・対話戦略

| | |
|---------|--|
| 広報戦略 | 自社HP・SNSでの告知。目的：活動について広く知って頂き、物販売上増に伴う維持費財源創出。また、スポンサーを取りやすくするため。 行政・子ども食堂・学校を通じて広告配布等。目的：困っている家庭に行き届く。また学校配布によって、誰にも言えずに困っている子どもにも届く。 |
| 連携・対話戦略 | ・川崎市、および、各市内の行政区(中原区等) スポーツ局は隔週で打ち合わせ SDGs絡みも月例、まちづくり、保健所等とも定期的に情報交換実施 ・川崎ブレイブサンダースのスポンサー/パートナー 学校法人や川崎地場で土地などを持つ企業約170社 https://kawasaki-bravethunders.com/sponsorship/sponsorlist/ ・川崎ブレイブサンダースの株主のDeNA、NTTドコモ ・NPO法人ピープルデザイン研究所 等の関係会社 |